



ボランティアセンターだより

2021年10月 No. 155号



食でつながる助け合いの輪

～みんなの食堂を開催しました～



生産者の方の支援と、「食」を通じたつながりづくりを目的に、美菜来恋屋で「みんなの食堂」を開催しました。当日は、お弁当の持ち帰りとその場で食べる食堂形式の2パターンを用意し、地元食材を使った食事を提供しました。

当日は、急な案内にも関わらず、多くの方がご来場くださいました。ホール運営や調理のボランティアさんは大忙し！「こんなに来てもううれしいわ」と笑顔がこぼれていました。もちろんシェフ特製「はも天井」と「はもカレー」の評判も上々！参加した方からは、「新型コロナウイルスの影響で外食ができない中、久しぶりに家族で出かけることができてうれしかった」「今度は子どもたちと一緒に調理体験やボランティア活動に参加したいなあ」など、たくさんの声をいただきました。

先の見えない不安を抱えている方が多くいらっしゃると思います。このような事業を通じて、さまざまな人がつながり、その出会いが少しでも不安を取り除けるきっかけになれば幸いです。



赤い羽根共同募金運動が始まります



～90%が南あわじ市内で活用されます～

今年も10月1日から「赤い羽根共同募金運動」が始まります。集められた募金は、市内の高齢者や障がい者、子どもたちへの福祉活動、地域でさまざまな福祉課題に取り組むボランティア活動に役立てられています。



今年もご協力よろしく
お願いいたします！

運動期間

令和3年10月1日

～令和4年3月31日

地域の **縫野得枝** さん・ **編方長子** さん

ありがとうございます♪

縫物が得意なボランティアさん（通称・縫野得枝さん）から「手作りアクリルたわし」、編み物が得意なボランティアさん（通称・編方長子さん）から「サニタリーポーチをご寄附いただきました。いただいた作品は架け橋パントリーの食材と一緒にお届けをさせていただきました。



大事にしたい 淡路弁

めげる

壊れる。ダメになる。

例) この前、冷蔵庫めげたわ。

(この前、冷蔵庫が壊れたわ。)

淡路島以外でも“めげる”を使う地方もあるようです！

発行 南あわじ市社会福祉協議会 ボランティアセンター
〒656-0122 南あわじ市広田広田 1064
TEL: 44-3007 FAX: 44-3037
MAIL: info@minamiawaji-shakyo.or.jp





地域を愛するものたちは、 おれらがまちの宝もの

沼島100年計画～SDGs実現委員会～



▷「沼島100年計画」って？



高齢化率が48.8%(R3.3月現在)と少子高齢化が進む沼島地域で、今年4月に30～60代の有志によって組織された『沼島100年計画～SDGs実現委員会～』(以下、沼島100年計画)が毎月2回、話し合いを重ねながら様々な活動に取り組んでいます。

きっかけは、「人が減ってさみしなった」「にぎやかやったところが懐かしい」という声を聴くたび「沼島に住んでいて楽しい、よかった！と前向きに言えるようになってほしい」と思っていた沼島育ちの神邊心美さんたちと、「沼島の魅力を多くの人に知ってもらいたい」と思っていた移住者である遠藤(塚)直子さんが子ども会で出会い、「沼島のために何かしたい思いはあるけど、口に出せない人はたくさんいるはず。そんな思いを声にして、みんなで実現していこう！」と夢を語り合ったことではじまりました。

▷メンバーはさまざま

沼島100年計画のメンバーは、沼島で生まれ育った方や沼島に魅了され移住してきた方、Uターンで戻ってきた方など様々。「沼島をもっともっと良くしたい！100年先に夢を持てるようにやらなければいけないことは何か？」などそれぞれの視点で話し合っています。

生まれたアイデアは、環境整備や観光ポイントの充実、情報発信など盛りだくさん！「やりたいことはたくさんあるけれど、今できることから」と最初に取り組んだのは、外来種であるナルトサワギクの駆除です。小中高生も参加し、ともに汗を流しました。

▷フリーマーケットに初出店！！

7月には2カ月に1回、「吉甚 バッカリ・カフェ」を運営し、メンバーでもある川勝恵さん主催の「ぬしまるしえ」にフリーマーケットを初出店したところ、商品がほとんど売り切れてしまうほどの大盛況！「島のみんなが久しぶりに楽しく集えてよかった」との声に、メンバーたちは確かな手ごたえを感じました。現在は『沼島オリジナルキャラクター』を、沼島を愛する人たちを対象に募集し、この秋には『沼島オリジナルキャラクター総選挙』が開催されるそうです。



▷沼島のたからもの

「島のみんなで力を合わせ、ここで暮らしていて楽しいと思えるように活動し続けたい」と話すみなさんこそが「沼島の宝者(たからもの)」であり、これからも夢を一つずつ実現していくことでしょう。国生み神話発祥の地に、100年先までをも照らす希望の光がありました。



Instagram

Follow Me

nushima100years



NUSHIMA100YEARS